

教職大学院 NEWS

Vol.28 2020.8月発行
三重大学大学院教育学研究科
教職実践高度化専攻

2020前期、終了！

4期生が入学して早4か月。新型コロナウイルスにより、本教職大学院の授業も様々な影響を受けました。全面オンライン授業という新たな試みのなか、4期生たちはどのような学びを深めてきたのでしょうか。1人1人が前期の授業をふりかえり、特に印象に残ったワードを紹介します！

インストラクショナル デザイン

学習目標、評価方法、教育内容等における授業の効果・効率・魅力の向上を高めるための様々な手法やモデルを広い範囲で学び、現場に戻った際、授業に活用しやすく実践的であると感じました。また研修等、様々な教育活動にも応用できるのも魅力的でした。(白鷹)

たくさんの授業デザインを学ぶことができたこと、後半の講義で学んだ授業デザインを使って小学校外国語活動の授業を組み立てて、プレゼンができたからです。大変いい勉強になりました。(田中)

不易と流行

時代に合った新しいものを積極的に学んでいくことと、昔から大事にされていることの本質を見極められないということが教職大学院での学びにとっても似ている部分があると感じ、印象に残りました。(坂倉)

新学習指導要領が全面実施となった4月、学習指導要領の変遷史を学び、さらに未来を生きる子どもたちを育てるため10年後の学習指導要領の内容についても考えました。時代の社会状況からの影響を受けて大きく変化していくであろうことが予測できたのは、まさに変遷史を学んだことの成果であると思いました。(谷中)

「教える」と 「学ぶ」 新学習 指導要領

みんなの幸せを目指すには、一人ひとりが多能化するのではなく、複雑化・多様化に対応するために、チームとしてのハイブリッド型の組織の必要性を改めて感じました。そして、同僚性を高めるためには、スクラップ&ビルドの考えを大切に、一人ひとりがロールモデルとなって、みんなが幸せであるウェルビーイングな職場を協働して目指していくことが、これからの学校には必要なことだと学びました。(永合)

講義で一番使われていたワードが同僚性であると思います。そして「スクールマネジメントの理論と実践」で同僚性についてのレポートを作成するにあたり、論文を精読してより理解を深めることができました。そこでは、同僚性が教員の問題行動の抑止や、離職率にも影響していることがわかりました。(松岡)

同僚性

私たちは「専門職としての教師論」の講義の中で、ドナルド・ショーンの省察的実践論について学びました。現在、教師がおかれている複雑な状況を打開するためにも、「省察的実践家」としての教師を目指すことは重要なことであると思いました。(岩花)

省察 省察的実践家 自己省察力 省察力

今までの教職経験を振り返り、「こんなやり方もあったのか！」「こうしておけばよかったの…」と思うことが多々ありました。過去を内省し、子どもたちのために自分が何ができるのか考えることができた前期でした。(米川)

これからのコロナによるICTを活用した教育の拍車や学習形態の多様性により「何を・どう教えるか」という決まりきった教授法は意味を持たなくなる可能性が高いです。子ども一人ひとりに向けて柔軟な授業を行うためには「なぜ、その方法で何を行うのか」を常に考える必要があります。そのような背景において「省察的実践家」としての教師像の重要性を痛感しています。(鈴木)

教師は「省察的実践家であるべき」ということを大学院で学びました。D.ショーンによる「省察」という思考は、行動と同時進行的に行われ「状況との対話」を通じて生み出される」ということで、求められる教師像として深く刻まれたからです。(長谷川)

これからの教師に必要な要素の1つとして、「省察力」が大切だと感じました。日々の実践の中で省察することで、自分自身も成長し、そして子どもにとってもより学びやすい環境となると考えます。(山本)

学び続ける 向上心

教職大学院に入り初めて知る用語や知識ばかりで、自分の中に落とし込むために学び続ける必要があると思っています。それに加えて、経験豊富で尊敬できる現職の先生方の、積極的に自ら学ぼうとする姿勢にとっても刺激を受けています。今後も、よりよい学びを子どもたちに提供するため「学び続ける教員」を目標に努力し続けていきたいです。(山野)

多様な子どもたちが学校に通っている中で、より多くの子どもたちが安心して授業を受けることができるために、ユニバーサルデザインを取り入れた授業が欠かせないと考えました。(桜木)

ユニバーサル デザイン

質的・量的 関係

「物事を客観的に見る」とは教育においても必要で、「自分がこう考えるから、相手も同じように考えているだろう」「自分ならここまで考える」といったことにとらわれて、児童・生徒の視点から物事を考えていないことがわかりました。自分の裁量で測るのではなく相手の立場に立って考えることで見え方・考え方の幅を広げることができました。(内藤)

教職大学院に入る前から、学部時代の経験を活かすという課題がありました。その課題を達成するために必要な言葉が、「理論と実践の往還」でした。教職大学院で経験を理論化しながら、新たな実践につなげる必要性に意義を感じました。(市橋)

理論と実践 の往還

組織は働く人の ためにある

スクールマネジメントの講義で学んだドラッカーの言葉です。学校が抱える問題がより複雑化する中、組織対応が求められるようになっていきます。学校組織が教師のために機能しているか。改めて考えさせられる言葉です。(浅井)

令和3(2021)年度 新しい教職大学院 がスタートします

三重大学大学院教育学研究科では、令和3年度より、教育科学専攻(修士課程)と教職実践高度化専攻(教職大学院)が統合され、新しい教職大学院になります。

ここが新しくなりました

- 教科教育高度化分野と特別支援教育分野の新設
- 定員は25名に

新・教職実践高度化専攻

現 = 現職教員対象

学 = 学部新卒者等対象

学校経営力開発コース

経営力開発分野

地域の教育改革を主導するスクールリーダーの育成

現

学習開発分野

多様で複雑な教育課題に対応できる人材の育成

学

教育実践力開発コース

教科教育高度化分野

高度な教材開発力と授業力を持つ人材の育成

現

学

特別支援教育分野

特別支援教育に関する高度な専門性を持つ人材の育成

現

学

説明会 に来てみませんか？

要 事前申込

第1回 令和2年 9月5日(土) 13:00~15:00

第2回 令和2年10月11日(日) 13:00~15:00 (※)第2回は学部新卒者等のみ対象

会場 三重大学 教育学部 教職支援センター レクチャールーム

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第1回説明会は【オンライン開催】となりました。第2回説明会についても、【オンライン開催】となる可能性があります。詳細は「教育学部・教育学研究科ホームページ」をご覧ください。

〈参加申込方法〉

①名前、②所属、③参加希望日 を記入したメールを【info-mkd@edu.mie-u.ac.jp】宛に参加希望日の3日前までにお送りください。

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院)広報担当

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教職大学院ウェブサイト <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp>